

令和4年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473201091	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人社団優和会		
事業所名	グループホーム華寿園		
所在地	(〒241-0014) 神奈川県横浜市旭区市沢町571-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年11月	評価結果 市町村受理日	令和5年3月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先
----------

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

華寿園では入居者様が日々の生活の中で自分らしく生きる（活きる）手助けとして、自己選択・自己決定ができることを大切に、自立（自律）支援に力を入れています。地域の自治会に加入し、行事等に参加していましたがコロナ感染拡大により現在は自粛中です。以前は地域で行われる作品展への出品やお祭りなど、また散歩だけでの外出ではなく買い物や食事なども積極的にサポートしていました。今はまだ難しい状況ですが、コロナ終息後は元の活動へ戻していきます。職員は毎月の勉強会や研修を通じて、介護知識・技術を高めています。
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年12月5日	評価機関 評価決定日	令和5年2月28日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<b>【事業所の概要】</b> グループホーム華寿園はJR横須賀線東戸塚駅からバス便で10分、最寄りのバス停から少し下がった住宅地に位置している。ホームの隣には外科病院があり、検査が必要な場合には受診することができる。また隣にはかかりつけ薬局があり、薬の変更などにも迅速に対応してくれる。少し傾斜のある土地に建つホームは、2階は木造建て、地下は鉄筋造りの駐車場になっている。 <b>【利用者の「今」を大切にしたい実践】</b> ユニットごとに職員全員が利用者目線でどのようなホームにしたいかを考えて理念を作成している。理念は、その時の利用者のニーズに応じて毎年見直している。職員は「待つ」ことを実践しており、利用者は、したいことや、しなくてほと思っていることを、時間が掛かっても自身のペースで行っている。利用者の思いや希望をアセスメントで聞き、その実現に向けて、日々の生活の中で時間をかけて見極め、できる事や好きな事を生かしてもらえるような支援に繋げている。訪問当日もリビングでは、職員と一緒に調理や布団カバーの交換、食器拭き、タオル畳みなどの家事をしている方達や、テレビを見ている方、折り紙をしている方等、思い思いに過ごしていた。職員と利用者がともに助け合うお互い様の精神の暮らしを実践している。 <b>【職員の資質向上への取り組みとチームケア】</b> 毎月介護事業部長によるオンライン勉強会を実施し、職員全員が参加している。勉強会後は各自レビューシートを提出し、1週間後の会議の席において回り持ちで報告している。レビューシートに書いた共有して欲しい事をメモにして事務所に貼る職員もいる。会議やケアカンファレンスで活発に意見交換しているが、普段から「それは良くない」「こっちの方が良いのでは」と言い合える関係があり、それがサービスに繋がっていると職員は感じている。7月に1階の職員と利用者の一部が新型コロナ陽性者となった時には、1階の職員が泊まり込みで利用者への対応にあたり、2階の職員が自発的に調理や洗濯、買い出し等を引き受けてくれた。職員間でもお互い様の精神が浸透している。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム華寿園
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム華樹園
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「それぞれのペースで、笑顔あふれる穏やかな毎日を」という理念をユニットで作り周知、共有し実践につなげています。	1階と2階で利用者の介護度やニーズが異なることから、ユニットごとに職員全員が利用者目線でどういうホームにしたいか、毎日をどう過ごしたいかを考えて、毎年理念を作成している。職員は、利用者のできる事、やりたい事、やりたくない事を一緒に考え、支援している。職員が行ったほうが安全で早いとは考えずに、その方のペースに合わせて待つことを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に運営推進会議を開催しています。夏祭りなどの地域行事はコロナ渦で中止となり、参加できませんでした。	開所時に自治会に加入して地域に根差した運営をしてきたが、コロナ禍以降は自治会長が事業所に顔を出してくれる時や、運営推進会議の報告書を届ける際に情報交換するだけとなっている。近隣の方と利用者が回覧板を一緒に届けたり、事業所の周辺を掃除したりする際に挨拶を交わしている。区のSOSネットワークに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の人の理解や支援方法を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーである、自治会長や役員の方々、地域包括、利用者家族より情報をもらい、日々サービスの向上に活かしています。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、自治会から会長の他役員が持ち回りで参加している。現在は書面開催になっている。職員と利用者は、毎回民生委員や自治会長の他、各回の担当役員に報告書を届け、挨拶をしている。メンバーから意見や提案はないが、労いの言葉ももらっている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>高齢支援課、生活支援課など担当者と連絡を取り協力関係を築くように取り組んでいます。</p>	<p>旭区の高齢・障害支援課には外部評価結果や運営推進会議の報告書を持参もしくは郵送している。要介護認定の更新時には担当職員と話をしたりしている。生活保護を受給している利用者についての相談は電話でしているが、区のケースワーカーによる年1回の面接を受け入れている。後見人がいる方は、後見人と月1回面接をしている。現在オンラインで開催しているグループホーム連絡会に参加して情報交換をしている。</p>	
---	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	全職員参加で、定期的な研修を行っています。身体的拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会は、虐待防止委員会を兼ねて、管理者、各ユニットリーダー、ケアマネージャー、法人の介護事業部長が参加をして3か月ごとの開催している。月1回定例カンファレンスがあり、職員から、これは虐待に当たらないか等の意見があれば、会議の中で取り上げ、検討している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員参加で研修を行い、常に注意を払って防止に努めています。定期的に虐待防止委員会を開催しています。	研修時に「不適切ケアのチェックリスト」で各自がチェックし、次の委員会の中でチェックリストの状況を確認している。経験が少なく、自身のケアに不安がある職員には、リーダーや管理者が声掛けなどの対応についてフォローしている。職員は虐待に繋がることがないように常に意識を持ちケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、学ぶ機会を持ち、それらを活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にはその都度、面談を行い、説明をしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から意見・要望を聞く機会を設けています。また家族等来訪時や電話で気になったことなどの話をできる時間を設け、運営に反映させています。	利用者が食べたい物や行きたい場所がある場合は、可能な限り要望に応じている。利用者の誕生日に家族から面会の希望があり、庭での面会が実現した。外でコーヒーを飲みたいという方には、家族とコンビニでコーヒーを買って貰い、公園でコーヒーを飲みながら話をしてもらった。家族からもっと体を動かす体操や家事をさせて欲しい	

				という要望があり、利用者に声掛けをして体を動かす機会を増やした例がある。	
--	--	--	--	--------------------------------------	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1 1	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体職員会議が行われ、その席で職員の意見を法人側へ伝えたり、随時相談や提案ができる環境になっています。	月1回、ユニット会議と全体会議を行っている。全体会議は法人の介護事業部長が参加して勉強会を兼ねて実施している。ユニット会議は各ユニットの課題検討や、ケースカンファレンスを兼ねて行っている。勤務歴の長い職員が多く、職員同士お互い様精神で協力し合え、融通が利く風通しの良い職場環境ができています。1年前にケアアプリを導入し、タブレットで介護記録を入力するようになってから、以前に比べて利用者の変化が分かり易く、情報共有も容易になった。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、処遇改善やベースアップの状況など、個人面談を通じて上席から説明を受けています。アセッサー制度の導入など、明確な評価システムを用いて、やりがいや向上心を持って働くことができます。	年1回、職員は法人部長等と面談をして今年目標や今後目指す事を話し合っている。事務所の一部をカーテンで仕切り、職員がゆっくり休憩できる場所を確保している。法人内には職員が公私にわたりいつでも相談ができる体制が整っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に沿って毎月必要な社内研修を行っています。各自の力量やキャリアアップに合わせた社外研修も行っています。	年間研修計画に沿って月1回オンライン勉強会を実施している。職員全員が事業所または自宅で受講し、ケアの質の向上を目指している。自宅で受講した際は勤務扱いとしている。研修受講後にレビューシートを提出して振り返りを行うとともに理解度を確認している。更に全体会議の中で職員が持ち回りで勉強会の報告をして意見交換をしている。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を導入したことにより、評価の過程で、管理者は職員といろいろな話をすることができ、職員のやりがいや向上心に繋がっている。	



14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人グループ内のグループホームの勉強会に参加しています。 地域のグループホーム連絡会の会合に参加するなど情報交換をしています。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い困りごとや要望を伺い、不安が軽減できるよう話をしています。本人の気持ちに寄り添った関わりに努め、安心できる関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族だけの面談も行い、不安な点や要望などを伺っています。分からないことや不安な点が軽減されるよう、話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で、「今、どのような支援を求めているのか」を丁寧に聞き取っています。フォーマル・インフォーマルの社会資源の活用も考慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を職員、他の入居者と一緒に行っています。提供するだけでなく、本人からの自主性や自己決定を尊重しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの状況に合わせた面会のご案内やいつでも電話で話ができるよう、家族との関係を築いています。本人の様子をマメにお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に合わせ電話を掛けたり、手紙のやり取りや年賀状を送る支援をしています。	近隣からの入居が多く、事業所周辺の景色が馴染みになっている。利用者に判子を押してもらったり塗り絵を塗ってもらったりして作成した年賀状を家族や友人に出している。コロナ禍の対応として面会は玄関先か庭で短時間、外出は禁止にしているが、利用者の夫の葬儀には参列してもらった。また新聞の購読を勧めたり、縫い物が得意な方には洋服の裾上げや、布巾のほつれ等の針仕事を頼んだり、編み物が好きな方には毛糸を用意したりなどして、従前の生活習慣が継続できるように支援している。利用者と一緒に漬けた梅干しや白菜漬けが食卓に上がる事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や関係性が良い方同士同じ空間に入れるような工夫をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も問い合わせや相談などに対しては、管理者や事業部部長が対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	傾聴し、お一人お一人の思いをスタッフ間で共有しています。本人に苦痛が生じないように本人の立場に立って考え工夫しています。	利用者がふと口にした言葉や、職員に思いや意向を話した際はケアアプリに内容を入力して情報共有している。利用者間の諍いを把握した時には、相手に対して言いすぎている方には言い過ぎの事実きちんと伝えると理解してくれる。重度化が進み思いや意向の把握が難しくなった方は、表情や仕草から推察して情報を共有し、対応を相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に記入いただく本人のこと（本人の事お知らせシート）を活用し、生活歴等をチームで共有しています。また、介護サービスを利用する経緯等も把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のペースを大切に心身状態、出来る事等の情報を把握しケアに活かすよう努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、情報共有、意見交換を行い、個別性を重視した介護計画を作成しています。	初回の介護計画は1か月で見直し、その後は3か月、様子を見ながら必要な場合は6か月で見直している。通常は短期目標6か月、長期目標を1年にしているが、状態の変化などに応じて3か月で見直す方もいる。看取りの介護計画は頻度を多くして対応している。介護計画は月1回モニタリングと評価をして必要な場合は医師、看護師などの意見も取り入れ、見直している。ケアアプリに入力したサービス内容を確認しながらケアの統一を図っている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実施内容等を個別記録に記入し、職員間で共有、モニタリングにも活かしています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の訴えやご家族の意向を取り入れながら、新たに生じるニーズに対応した支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦でイベント等が中止になりご本人が力を発揮する場面が少なくなりました。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診を実施しています。急変時の連絡方法の構築、情報の共有を行っています。通院支援も必要に応じて行っています。	月2回、全員が協力医（内科）の往診を受けている。往診時は非常勤看護師とかかりつけ薬局の薬剤師が同席して、医師からの指示や説明を受けている。週1回治療のために歯科医師が来所している。希望者は週1回歯科衛生士の口腔ケアを受けている。非常勤看護師は、週1回、1日かけて利用者の相談事への対応や、寝たきりの方の入浴介助や巻き爪の処置の仕方等を職員に指導をしている。訪問マッサージと契約している方もいる。家族同伴で外部の医療機関を受診した方が事業所に帰ってきた際に、感染症対策として入浴や着替えをお願いしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で、気づきや情報を伝えています。相談、質問等を聞き、看護職員より指示やアドバイスを受けています。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者と情報共有し、利用者にとって最善の方法を話し合っています。入院中もご家族と連絡を取り合っています。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族に意向を伺い、ホームでできることの説明を行っています。関係する皆で支援できるよう勉強会や話し合いを行っています。	入居時にホームの看取りの指針を説明し、同意を得ている。その後本人の意思も確認しつつ、家族に「終末期医療に関する事前指示書」を記入してもらい、看取り時に再度指針を説明して同意を得た上で対応している。不安を口にする職員には、管理者は「何かあればすぐに駆け付ける」と言っている。看取り後はカンファレンスを行い、振り返っている。看取り時は、家族に自由に面会に来てもらえるよう対応している。看取り後も家族に色々な話を伝えている。看護師同席でエンゼルケアを実施し、利用者も線香をあげることもある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い、対応できるように努めています。			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。通報訓練、非常口、避難経路など行いました。	9月1日に災害発生時の避難先の確認を目的にした訓練を介護職員のみ8名で実施した。1月には利用者也参加して夜間の火災を想定した避難訓練を予定している。訓練には自治会の役員の協力も得る予定にしている。自治会長から災害時には、事業所の建物に留まっていたら自治会から支援に行くと言われていた。利用者の部屋には、高さのない家具を置き、家具の前面を高くする転倒防止装置等の対策している。備蓄品はリスト管理している。	開所来地域に根差したホームとして自治会と良好な関係作りに努めています。その事を踏まえ、非常災害には隣接する病院や地域の自治会との連携や、相互協力体制がより強固なものになるように協定書を交わされる事を期待します。また、非常災害に備え、家具だけでは無く電気製品等の飛び出しや転倒を防止する対策の再検討、備蓄品在庫の適切な数量の把握と消費期限の再確認を期待します。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳に関する研修は年に一度行っています。ケアの中で尊厳に配慮していないような場面が見受けられた場合、指導を受け改善をしています。	利用者の人格の尊重を最優先にして、その方のやりたい事や、出来る事を主体的に行えるように支援をしている。また利用者の羞恥心に配慮して排泄用品は部屋の引き出しに仕舞うか、タオルを掛け見えないように工夫をしている。管理者は、排泄介助時、職員の大きな声や、膝タオルのかけ忘れや入浴後のタオルのかけ忘れが見受けられた際には都度声をかけ注意を促している。タブレットに情報を入力する際は、利用者に見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞きながら尋ねるコミュニケーションをとっています。「○○お願いできますか?」「○○いいですか?」等問いかける形で声掛けをし、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間はそれぞれのペースに合わせています。個々のやりたいこと、趣味嗜好に合わせた支援を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などおしゃれを楽しんでいます。髪型を注文したり、洋服を自分で選んだりその人らしい姿で過ごせるよう支援しています。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>昼食は一緒に考え、調理、下膳、食器洗い等それぞれができることを行っています。また、特段の調理が必要になった場合も食の好みに合わせて献立を考えています。</p>	<p>職員が調理の支度を始めると利用者も台所に立ち、包丁で食材を切ったり、器に料理を盛りつけたり、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き等々の家事を一緒にしている。朝晩の食事はレシピ付きの食材が配達されるが、お昼の食材は利用者と一緒に選び、ネットで購入している。昼食は、朝10時頃に職員が利用者に食べたいものを確認してメニューを決め作っている。おせち料理は1人ずつお重を頼み、ホームでお煮しめや栗きんとん、なます等を手作りしている。薄い餅を入れた雑煮も提供している。時には、パン食やファーストフード、カップラーメンも提供して喜ばれている。食事時間や居室での個食等も希望に沿って対応している。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に合わせて、食事量や形態を考え提供しています。医療との連携にて、栄養状態に配慮し、一日の食事量と水分摂取量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態にあった口腔ケア、義歯の衛生管理を行っています。また訪問歯科を利用し、定期的に口腔内チェックをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認表を活用し、個々の排泄パターンを把握して、トイレで自然排泄ができるよう支援しています。	排泄確認表を確認してトイレ誘導することでトイレでの排泄を支援している。日中はリハビリパンツにパッドを使用する方が多数だが、リハビリパンツだけの方や布パンツに安心のためパッドを使用する方等、各々の排せつ事情を考慮している。全介助の方が1名いる。夜間は睡眠優先にして就寝時は大きなパッドを使用する方、夜間だけポータブルトイレを使用する方もいる。トイレは、掃除に加えアルコール消毒をして感染症対策をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や、毎日ヨーグルトを提供し、自然な排便ができるよう取り組んでいます。強度な便秘時は医師処方の緩下剤で対応しています。		

45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一人一人の希望に沿った時間に配慮し、入浴の声掛けを行っています。また入浴中もできる限り本人の希望に沿ってゆっくりと入浴できるよう安全や羞恥心に配慮し支援を行っています。</p>	<p>原則週2回の入浴は、希望により回数を増やすこともできる。入浴を好まない方には時間や担当者を変えて無理強いない程度に勧めている。自立で入浴をする方には、職員が時折声を掛けながら見守りをしている。浴槽に浸かるのを怖がる方にはシャワーや、足浴で対応している。湯船の湯や足拭きマットは清潔に配慮して1人ずつ変えている。利用者は職員との1対1の会話や、季節の柚子湯で入浴を楽しんでいる。浴室暖房や、脱衣場にヒーターを設置し、ヒートショック対策をしている。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ類の清潔保持、一人一人の生活習慣や体調に合わせて休息したり、心地よく休めるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の協力と服薬支援機を使用しています。往診時も薬剤師に同席してもらい、服薬支援を行っています。服薬時の確認表を変更し、誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいこと、できることを見つけ役割分担をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦のため、外出はできませんが、ごみ捨てに行ったり、庭に出て花を楽しんだりしています。	コロナ禍で散歩ができなくなったが職員と一緒に隣家に回覧板を届けたり、新聞を取りに外に出たりして、気分転換している。春には少人数で車に乗って、近所の団地まで出掛けて、短時間のお花見を楽しんだ。帰路は事業所まで歩いた利用者もいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ渦のため、買い物に行けていませんがご本人が希望する物はご家族に頼んだり、職員が購入したりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話はいつでもできるようにしています。そのほかに、オンライン面会も実施しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾をしています。湿度・温度・彩光・音等にも配慮して心地よく過ごせる工夫をしています。	2階ユニットは天井が高く開放感があり、それぞれのユニットは日射しが明るく、暖かい。空気清浄機付き加湿器を複数台設置し、室温や湿度に加えて換気にも常に留意し、アルコール消毒で感染症対策をしている。リビングに掛けたカレンダーで季節や日付を確認してもらっている。訪問時は、リビングにクリスマス飾りが施され、華やかな雰囲気だった。利用者は毎朝リビングの掃除やモップ掛けを行っており、生活リハビリになっている。訪問当日も昼食前のひと時、職員と布団カバーを交換する方、タオル畳みやコップ拭き、エプロンを付け調理を手伝う方、またテレビを見たり、折り紙をしたりする方がいて、それぞれ思い思いの時間を過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席も気の合った利用者同士で座れるように配慮しています。他、様々な場面に応じて臨機応変に対応しています。		

54	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具等は使い慣れた物を使用させていただきよう願っています。お部屋の中はご本人や家族の好きなようにレイアウトしていただいています。なじみの物を少しでも多く持ち込んでいただくよう願っています。</p>	<p>防災カーテン、照明、エアコンが備えられた居室に、利用者は自宅から椅子や机、チェストなどの家具類や、仏壇やテレビ、小物入れ、縫いぐるみ等、使い慣れた物を持ち込んでいる。壁に家族の写真や自分で作った作品、塗り絵などを飾り、居心地の良い部屋にしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>視覚によって情報や状況が判断できるよう環境を整えています。物の配置を工夫し自立歩行ができるような空間も作っています。</p>		

事業所名	グループホーム華寿園
ユニット名	こすもす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、ユニットで「ゆっくり一緒に助け合い、笑顔で暮らせる豊かな生活」という理念を掲げ日々実践できるよう心がけています。 一人一人に向き合う介護に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し、活動報告を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進介護を開催し、活動報告を行っています。認知症の方の理解や支援方法を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの運営状況を報告し、意見、感想をいただいています。意見等は日々の支援に生かすようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢支援課、生活支援課などの担当者と連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行い、職員全員が理解し、実践できるよう取り組んでいます。定期的に委員会を開催し、マニュアルの見直し等行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に注意を払い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い権利擁護の制度の理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族などにその都度面談などを通して説明を行い、理解していただくよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見要望を聞く機会を設けています。 (ケアプランの説明時など) 頂いた意見は運営に反映できるよう法人本部に伝えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体職員会議を開き法人の部長等の上席職員との意見交換の時間を設けています。また、年に一回は必ず個別の面談を行いその他でもいつでも意見提案ができる環境があります。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス残業の廃止、全職員の給与体系を透明化し、様々な手当を設け、一人一人の職員にやりがいを感じることができるよう環境組織づくりをしています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、実施しています。社外研修もテーマにより必要なもの、関心のあるものは受講できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に入会しておりネットワークを活用してサービスの質の向上につながるよう努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人・家族と面談し、ホームの特徴を伝え入居後の不安が軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様だけの面談も行い、要望や不安な点など聞き取りを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークにおいて「今何を必要としているか」を聞き取り、しっかり記録に残しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動などは職員と一緒にを行っています。提供するだけでなく、自己決定、自己選択をしてもらいながら支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にできるよう、オンラインや対面面会でご本人の様子を理解していただけるよう努めています。ホームからの電話や手紙で本人の様子を伝え共に支えていく関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族との関係が継続できるように年賀状を送ったりオンライン面会や対面面会を実施しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃よりその人らしさを大切に、時には間に入り利用者同士の関係が築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も問い合わせや相談などに対しては、管理者や事業部部長が対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の一人一人の言葉や表情に注意し、本人の希望を傾聴しています。スタッフ同士で共有し、本人本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を把握するために、入居時に生活歴を教えてください、様々な場面での会話や姿からこれまでの経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを通して、現状の把握をし、ご本人との会話や様子などからも情報を共有できるよう努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施しています。都度本人や家族の要望を確認し、カンファレンスなど皆で意見を共有・介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入しています。職員間でその情報を共有しながらケアを実践し介護計画の見直しにも反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の訴えやご家族の意向を取り入れながら、新たに生じるニーズに対応した支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの関係で、地域との交流は原則行えていません。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診を実施しています。急変時の連絡方法の構築、情報の共有を行っています。通院支援も必要に応じて行っています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で、気づきや情報を伝えていきます。相談、質問等を聞き、看護職員より指示やアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報共有し、利用者にとって最善の方法を話し合っています。入院中もご家族と連絡を取り合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族に意向を伺い、ホームでできることの説明を行っています。関係する皆で支援できるよう勉強会や話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い、対応できるよう努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。通報訓練、非常口、避難経路など行いました。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳についての研修を年間計画に位置付け実施しています。コミュニケーションの場面、身体介護の場面、それぞれにおいて尊厳の保持を意識した対応をするよう心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものや飲みたいものを自身の意見で選べるようにしています。入居者様の思いや希望を確認するときには、「〇〇でよろしいですか？」など問いかけの形で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活リズムを大切に、起きたい時間に起床しています。日常の生活時間も入居者様の希望を優先にした支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪形や服装などおしゃれを楽しんでいます。髪型を注文したり、洋服を自分で選んだりその人らしい姿で過ごせるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	例えば生協のカatalogで食べたいものにするしをつけて発注をしたり、冷蔵庫の中の物からメニューを考えて入居者と職員と一緒に調理や、片付けを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の個々の状態に合わせて食事の量や形態を考えています。水分量についても1日のトータル摂取量に注意し、必要があれば主治医の指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促しています。義歯の消毒も定期的に行っています。訪問歯科により口腔内チェックも行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の思いを大切に、トイレでの排泄ができるよう支援しています。安易にオムツ等の使用をしません。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物を工夫や運動への働きかけ等、便秘への予防をしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に希望を聞いて対応しています。いつ入るのか、入浴時間の長さなど、できる限り希望に添えるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯及び就寝時間は決めていません。室温の調整などを行い、心地よく休めるようにしています。昼間も自由に体を休めてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の協力と服薬支援機器を使い、誤薬防止に努め、往診時も薬剤師に同席してもらい適切な服薬支援を行っています。最新の薬情がすぐみられるようファイリングしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、得意なことや好きなことを見つけ、活躍できるよう役割分担をして家事等を行っています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦で外出できていません。職員とごみ捨てや庭に出たり可能な限り屋外へ行けるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ渦で買い物には行っていませんが、ご本人の希望する物があれば職員が代行したりご家族に伝え購入しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせ、オンライン面会を積極的に行っています。また電話や手紙等、自由にやり取りをしていただいています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけをしています。日差しがまぶしいときは、ご入居者様同士で確認をし合い、調整している姿があります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ渦のため距離は取りつつも会話を楽しめるよう、ソファを設置したり座席等思い思いに座っていただいています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れたものを使用させていただくようお願いしています。お部屋の中はご本人や家族の好きなようにレイアウトしていただいています。なじみの物を少しでも多く持ち込んでいただくようお願いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚によって情報や状況が判断できるよう環境を整えています。物の配置を工夫し自立歩行ができるような空間も作っています。		



目 標 達 成 計 画

事業所名 クルーブホーム華寿園

作成日 2023年3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時 地域自治会との相互 協力体制がより強固 なものになるように 協定書を交すことが 必要である	自治会との良好な 関係を作り連携を 強固とする	総会へ出席し 協定書(復書)を 取り交す。	1ヶ月
2		非常災害時の備品、 備蓄品在庫の適切な 数量、消費期限 の再確認。	非常食品の管理 適切な数量の把握 消費期限前に 取りかえる。	半年に1度はチェックする 普段から少し多めに 食品、加工品を買い 使ったら使った分だけ買い 足していく(ローリングストック)	1年間
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。